

令和5年度 学校評価総括表

教育目標	高い志をもち、広く社会や地域に貢献する自立した人材の育成	総合評価
運営方針	「不撓不屈」の校訓のもと、「土に学び土で育つ」をスローガンに定め、実学を重視した教育活動を展開する。「できないこと」が「できること」に変わる、生徒が日々成長する学校、「行きたい」「来てよかった」と思える魅力ある学校づくりを実現する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に学び、変化する社会に対応できる確かな学力を培う。</li> <li>他人を思いやる豊かな心を育て、人権を尊重し、社会に貢献する精神を育む。</li> <li>健康、安全についての知識を深め、健康保持に努めるたくましい心身を養う。</li> </ul>	

令和5年度の成果と課題	本年度重点目標	B
地元農家の協力を得て、実習を核にした実学教育の推進、新たな学校行事を含めた教育課程の再検討を必要とする。 全国から生徒を募集しているが、募集定員を満たしていない。学校の魅力づくりや情報発信をさらに強化する。 農業の専門高校としての農業施設や設備の整備・充実が急務である。 オンラインを利用した授業のあり方についてさらなるスキルアップが必要である。	基礎学力の定着と個に応じた進路指導を実現する。～授業の改善・実習の充実とキャリア形成～	
	安心で安全な学校づくりに努める。～開発的生徒指導と豊かな心を育てる人権教育～	
	充実した学校生活を実感できる教育活動を実施する。～学校行事の充実と部活動の活性化～	
	保護者や地域との連携を密にする。～情報発信、学校評価、地元協力農家との連携～	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
総務	家庭・中学校・関係諸機関との連携に向けて、具体的な取組を行う。	学校運営協議会を実施し、地域や育友会との連携を密にし、広く協力・援助を求める。【目標 年2回】	B	A	育友会の行事への参加は、育友会総会が50%、体育大会の見学は平日にも関わらず16%の見学があった。	学校運営協議会を通して、地域や育友会との連携をさらに深める。	
	地域社会の人的・物的な資源を積極的に教育活動の中で活用する。	子ども園や高齢者との交流の機会を設ける。また地域の先進農家や社会人講師の講義等を授業に取り入れる。【目標 交流年4回、社会人講師5回以上】	A		子ども園交流年4回に加え小学校交流も2回取り入れた。長寿ふれあい健康祭も4年ぶりに開催され地域の高齢者に喜ばれた。また社会人講師は9回招いた。	幼小中、高齢者等、地域交流活動を広げる。また、社会人講師を積極的に活用し、生徒の興味関心の向上に繋げる。	現在の情報収集はSNSが主になっています。ブログでの情報発信は効果的だと思います。継続して、西吉野農業高等学校を全国に周知してください。
	広報活動を生徒や保護者、地域や各方面に展開し、本校への理解を深めてもらえるよう努める。	本校の魅力・特色を広く理解してもらえるよう、中学生の体験入学、パンフレット、学校新聞、学校ホームページ、ブログ等、情報発信に努める。【目標 ブログ更新週3回以上、アクセス数月6,000件以上】	A		ブログ更新平均週4日、アクセス数は月7,100件を超えた。「西農新聞」年3回、「広報五條」年2回刊行する等広報活動を行った。	ブログ発信を組織化し、安定した更新を図る。新聞の定期刊行を継続し、広報活動を充実させる。	
学習指導	各教科・科目において基礎・基本的事項、専門的知識・技術の定着を図る。	基礎的・基本的事項とその達成目標を明確にするとともに、学習方法についても単元・教材ごとに確認する。	B	B	基礎的・基本的事項と達成目標を年度当初に確認した。ほとんどの生徒が具体的な目標を把握し、学習方法について理解できていた。	基礎学力の底上げに向けた指導方法の工夫、協働体制の確立を引き続き図る。	
	個性を生かし多様な人々との協働を促す教育を推進する。	校外での実習や競技会・イベント等に積極的に参加する意欲を育み、成果をあげる。	B		各種行事・競技会、農業クラブの大会において成果をあげた。ブログによる紹介や、報道機関の取材も積極的に行えた。また、農業教育高度化事業も先進農家や研究機関と連携し実施できた。	校外での学習の機会を維持するとともに、異学年間の学びや他校との学び合い、様々な場面でリアルな体験を通して学ぶなど、協働を促す教育の機会を設定する。	引き続き、校内学習指導研究週間を実施し、学習指導力の向上につとめてください。農業学習では生徒と共に施設の充実を図ってください。
	学習指導力の向上を図る。	授業研究月間を設定し、全ての授業を公開して、多くの授業を参観し学習指導の研究を行う。また、指導と評価の一体化の実施状況を確認する。	B		10日間の校内学習指導研究週間を実施できた。また、主体的に学習に取り組む態度の評価に関する研修会を実施できた。	指導と評価の一体化については一定理解が進んでいるが、引き続き教務研修会等を企画し、指導力向上を図る。	

評価項目		具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
生徒指導	規範意識の向上	全体指導、個別指導、家庭、地域の行事やボランティア活動などを通して、日常生活にかかわる基本的ルールを守る姿勢を育む。	A	常日頃より生徒の様子をきめ細かく観察し、些細なことでも連絡連携報告を欠かさなかったことで生徒の意識も向上した。今後も継続していきたい。 担任を中心に全生徒と面談し、気になる生徒には家庭連絡や寮との連携を図るなど早期発見に努めた。全ての生徒が安心できるような体勢作りを進める。 講師を招聘しての交通安全マナー講習会は実施できなかった。また、急な災害への対応については危機管理マニュアルの周知徹底を図った。	個人別生活カードの活用をより有効に活用し地域、家庭、学校、各関係機関との連携を充実させたい。	学校生活における指導について、優しさは必要ですが、従来からの厳しさも生徒のためには必要です。状況に応じた適切な指導をお願いします。	
	いじめの防止	基本方針に基づいて、早期発見に努め、認知した場合は組織全体で対応する。また、教育相談体制を整え、予防に努める。	A				教育相談をより充実させ、ヤングケアラー、DV、いじめの兆候を見逃さないような取り組みを充実させる。
	安全教育	危機管理や安全についての意識を高め、交通安全や災害、防犯、不審者の対応、感染症対策などについて、全校生徒に周知徹底を計り、確認点検をする。	C				自然災害への対応や交通マナーの徹底感染対策など外部講師への依頼、各関係機関との連携を図ってきたい。
進路指導	計画的な進路指導	HRを通して、進路実現に向けた準備を計画的に行う。【目標 キャリアパスポートを作成する。(全学年)100%】	B	今年度の目標・振り返り・考査の振り返りを中心にキャリアパスポートを作成した(100%)。  2年生の職業適性検査受検は100%であった。自己分析についてのHRは全学年で実施できた。2・3・4学年ではそれぞれの異なる教材を利用した。  農家実習以外のインターンシップを希望する生徒はいなかった。農家実習記録簿は100%の提出率であった。	全員参加行事の取組状況についても付け加える。  自己分析に関する記述を、4学年を通して繰り返しさせることで、自身の成長を認識させる。	就職してから、上司からの厳しい指導で離職する生徒もいると思います。早期の離職を避ける意味で、日頃から厳しく温かい指導をお願いします。	
	自己分析の徹底	自分の性格・個性・興味・関心・自分の価値観について知る【目標 職業適性検査受検(2年生)100%、自己分析についてのHRを展開する。(全学年)100%】	A				
	適切な勤労観の醸成	インターンシップや農家実習での交流をとおり、自らの勤労観・職業観について価値観形成を図る。【目標 記録簿の記入 100%】	B				農業関連以外を志望する生徒に、志望職種でのインターンシップ参加を促す。
人権教育	人権感覚を育てる。	身近なテーマをホームルーム活動でとりあげ、人権に関する理解を深め、他人を思いやる豊かな心を養う。【目標 人権HRの実施、年間5回以上】	B	人権教育ホームルーム年5回以上行うという目標であったが、学教行事による変更もあり、3回しか実施できなかった。  アンケート集約の結果、生徒は89%、保護者は95%が「そう思う」との回答であった。  年度当初に中学校から提出された資料を基に支援を要する生徒について情報共有できた。SCによるカウンセリングも8回実施できた。	来年度は学校行事の変更も想定した、ホームルーム計画を検討する必要がある。  生徒が安心できる環境をつくるためには、人教部だけでなく、他分掌、学年、教科との連携をさらに深めていきたい。	人権ホームルーム及びスクールカウンセラーの活用を継続し、人権感覚の醸成や生徒支援を引き続きお願いします。	
	安心できる環境づくりに努める。	生徒が安心して学校生活を送れる環境づくりに努める。【目標 「学校は安心できる環境づくりに取り組んでいますか。」というアンケート項目への回答で、「そう思う」80%以上】	A				
	生徒を支援する体制を整える。	支援を要する生徒について、職員間で情報共有をおこない、全職員で支援する体制づくりに努める。【目標 年度内に特別支援計画・教育計画を作成する】	B				特別支援計画は、対象者の絞り込みを4月、7月まで生徒観察、三者面談で意向を確認、作成という流れで取り組む。
保健体育	体育行事への参加を推進する。	体育行事の内容や時期などの精査を行う。また、運営などに生徒を積極的に参加させることにより、参加意欲の高揚を図る。【目標 出席率100%】	B	体調不良やケガの影響で、参加できない生徒が数名おり、目標には届かなかった。しかし、体育行事に取り組む意識は年々向上しているように思う。  体力テストのアンケート結果(6月)をもとに算出したところ、欠食率は14.1%であった。欠食アンケートは実施できていない。	授業等での働きかけや内容をより充実させ、生徒全員が楽しんで前向きに参加できる環境作りを進める。	行事については生徒一人ひとりに役割分担して、全生徒で行事を盛り上げてください。	
	食育指導の徹底を図る。	欠食アンケートの実施や体力テストのアンケートをもとに、食習慣の実態を把握し、関係教科などで食育の推進を図る。【目標 欠食率15%以下】	B				欠食アンケートを定期的に実施し、生活習慣の実態や食育の推進がなされているかをより細かく把握していく。
	校内環境衛生管理を徹底する。	新型コロナウイルス感染症やその他感染症の蔓延を防止するために、衛生維持、消毒液の補充などを徹底して行う。【目標 クラスター発生件数0件】	A				今後も継続して衛生維持に努めながら、感染症の感染拡大を防ぐために、意識付けを継続して行っていく。

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
第1学年	基本的生活習慣の確立	規則正しい生活習慣を心がけ、欠席・遅効・早退をせず毎日学校生活を送らせる。【目標 出席率97%】	A	B	中学で学校へ行っていなかった生徒も多い中、出席率は97.3%であった。遅刻をする生徒も少なく、2割の生徒が皆出席であった。	毎日学校へ行くことが、自分の生活の充実や社会生活の基盤にも繋がっていくということを、HR等で指導する。	出席率が高く感心しています。これからも学校が楽しいと生徒が思うような取組を継続してください。
	開始時間厳守	各授業の開始5分前に授業の教室に入り、チャイムと同時に号令をかけさせる。【目標 年間で入室カードの記入を一人平均3回以内に収める】	B		入室遅れによる、入室カードの記入はほとんどなかったが、一部生徒の授業中にいくトイレが目立ち、一人平均4.5回となった。	授業だけでなく、体調管理も含め何事にも余裕を持って準備することが信用に繋がることを確認させる。	
第2学年	学級自治の促進	望ましいコミュニケーションを意識させながら、学校行事などの学級での話し合い活動を生徒主導で行わせてまとめさせる。	B	B	席替えや熊野体験実習、グループ学習などで生徒同士で話し合いながら進める場面がみられた。一方で、粗野な言葉遣いをする生徒も見られた。	言葉遣いについて、人権やマナーと関係づけてHR等で展開する。さらに学級全体で行う活動に自治的に運営させる。	引き続き主体的に学級活動ができるよう指導してください。
	農家実習	農家実習で大切なルール遵守の徹底や、挨拶、態度、服装などの指導を行う。体調管理に注意させ、欠席をできるだけさせないようにする。	B		幾度か注意をすることもあったが全般的に、挨拶、服装、態度も良好であった。2回ほど欠席する生徒もいたが、全体としては積極的に取り組んでいた。	望ましい着こなしや行動について確認する。欠席することのデメリットを確認する。	
第3学年	規範意識の向上	集団生活で大切なルール遵守の徹底や、態度、服装、言葉使いなどの指導を行う。 【目標 毎朝、毎回の授業で服装確認】	B	B	服装については、普段から規範意識の高い生徒と、指導を行えば素直に従う生徒に分かれた。言葉使いについては、全体的に相手への配慮を欠く場面が多く見られた。	二年後には社会に出て活躍する自分自身をイメージさせ、周囲への配慮やルール遵守が人間関係の基盤となることをHR等で展開する。	進路実現に向けた取組をお願いします。社会人としてのマナーについても指導をお願いします。
	進路決定に向けた準備	進路について調べ、知識や情報を得て方向性を見出すことで、来年度の進路決定がスムーズに運ぶよう準備させる。【目標 面接の基本動作と簡単な質問への受け答え】	A		毎週の西農タイムで就職や進学の流れを確認し、ネットや資料を通して進路選択に必要な情報を個別に集めた。また、面接質問への回答を考えるなどして自己理解を深めた。	来年度の進路選択を意識させ、決定に向けて自主的な取り組みの必要性について話すと共に、最終学年に向けてのクラスの雰囲気作りに努める。	
第4学年	進路の決定	進路に関しての面談や指導をきめ細やかに行き、生徒の意思に寄り添った進路実現ができるよう進路面談、進路活動等を積極的に行う。【目標 月2回以上】	B	B	進路面談や進路活動等を行った回数は、目標には届かなかった。しかし、日々の働きかけをきめ細かく行き、希望進路の実現はできたように思う。	進路について、より相談ができるように担任、副担任を中心に、進路指導部等にも協力してもらい、進路活動を進める。	引き続ききめ細やかな指導を行い、全員の進路決定に向けた取組をお願いします。
	生活習慣の確立	就職・進学後を見据え、基本的生活習慣の確立や挨拶、マナー、身だしなみなどについての指導を徹底して行う。【目標 出席率:毎月95%以上】	A		クラス全体での出席率は97.9%と良好であったが、個人で見ると出席率の低い生徒が数名見られた。ただ、学期が進むにつれて改善が見られた。	出席することの重要性をより認識させ、社会とはどういうものかをより明確に認識させる。	
農業科	安全・安心な農場作り	増設したビニルハウスやカキ園場を有効かつ安全に活用し、安心して実践的・探求的な学習活動を行える農場作りに努める。【目標 実習での事故0件】	B	B	実習中の大きな事故やケガはなかった。増設ビニルハウスやカキ園場では、生育状況や準備の手間によって計画通りの使用は出来なかった。	増設ビニルハウス、カキ園場を含め校内園場の使用方法を現状に合わせるべく検討する。	施設等の維持管理について生徒が実習等で学べる取組をお願いします。農業クラブ活動については引き続き全生徒が参加できる工夫をお願いします。また、次年度の活躍を期待しています。
	農家実習での深い学び	農家実習後、学んだ知識や技術を毎回記録簿に整理させるとともに、思考力、表現力を育成する。 【目標 記録簿提出100%】	A		農家実習後の記録簿提出状況は良好であった(提出率100%)。記述の内容には思考力・表現力の向上が見られた。	記録簿の記述について、振り返らせる時間を設け、思考力表現力のさらなる向上を図り、自身の適性についても考えさせる。	
	農業クラブ活動の活性化	各競技会やコンテストへ参加により、農業に関する課題を合理的かつ創造的に解決する力を育む。 【目標 放課後活動週3日】	B		本年度は農業鑑定競技会で全国大会、プロジェクト発表会で近畿大会に出場することができた。しかし、来年度の大会に向けて取り組む体制が確立できていない。校内活動は計画通り実施できた。	放課後有志のメンバーで行っていた地域交流活動は授業の教材として扱う等、取組の方法を工夫する。	